

## 総合型放課後事業の現状と課題について

### 1. 背景・趣旨

本市では、少子化や核家族化の進行、家庭と地域とのつながりの希薄化など社会状況の変化に伴い、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、令和2年3月に第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画（以下「子ども・子育て支援事業計画」という。）を策定し、妊娠・出産からの切れ目のない子ども・子育て支援施策を総合的・計画的に進めてきました。また、放課後児童対策についても、子ども・子育て支援事業計画の施策目標に掲げる子どもの個性や創造性を育む環境の整備や子育てと仕事の両立支援の実現に向け、国の新・放課後子ども総合プランを踏まえ、令和2年3月に「児童の放課後を豊かにする基本計画」を策定し、すべての児童を対象とした放課後の安全な居場所づくりと小学校入学以降も保護者が安心して就労できる環境の整備を進めてきました。さらに、令和5年度からは、全市立小学校で留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアを一体的に運営する総合型放課後事業の取り組みを民間活力も活用しながら進めてきたところです。

今後、子どもたちにより良い居場所づくりとして、放課後児童対策の取り組みを計画的に進めるため、児童の放課後を豊かにする基本計画の取組状況や課題等を検証するものです。

### 2. 総合型放課後事業の取り組み状況について

#### (1) 現状

##### 【①全児童数】

(単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全児童数	20,777	20,352	19,951	19,543
前年比		▲ 425	▲ 401	▲ 408
累積			▲ 826	▲ 1,234

(各年4月1日現在)

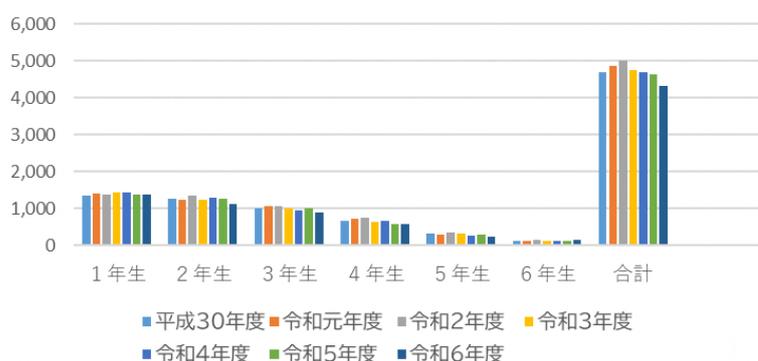
##### 【②留守家庭児童会室】入室状況

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1年生	1,342	1,417	1,367	1,422	1,443	1,377	1,369
2年生	1,261	1,235	1,337	1,226	1,281	1,272	1,132
3年生	1,004	1,067	1,054	1,012	948	1,009	887
4年生	661	719	755	645	650	563	588
5年生	327	299	356	319	262	294	224
6年生	111	122	131	119	107	122	135
合計	4,706	4,859	5,000	4,743	4,691	4,637	4,335

(各年4月1日現在)

留守家庭児童会室の状況



待機児童数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
待機児童数	65	56	138	8	12
班数	100	101	96	102	97

総合型放課後事業実施

(各年4月1日現在)

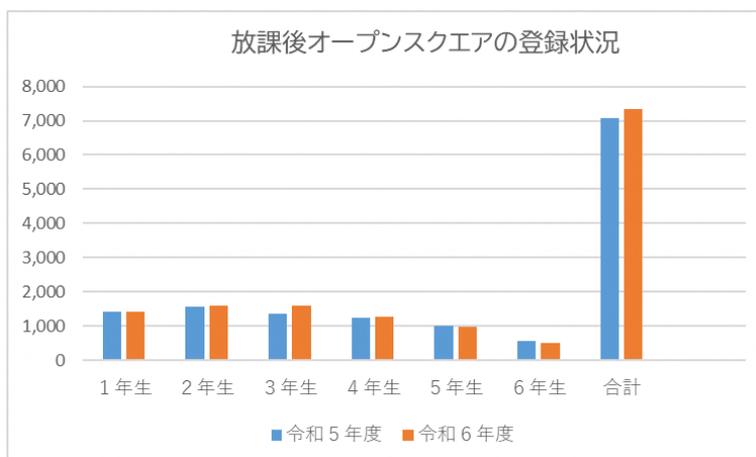
### 【③放課後オープンスクエア】

#### 放課後オープンスクエア登録状況

(単位：人)

	令和5年度	令和6年度
1年生	1,402	1,407
2年生	1,551	1,593
3年生	1,349	1,598
4年生	1,225	1,282
5年生	992	960
6年生	559	507
合計	7,078	7,347

(各年7月31日現在)



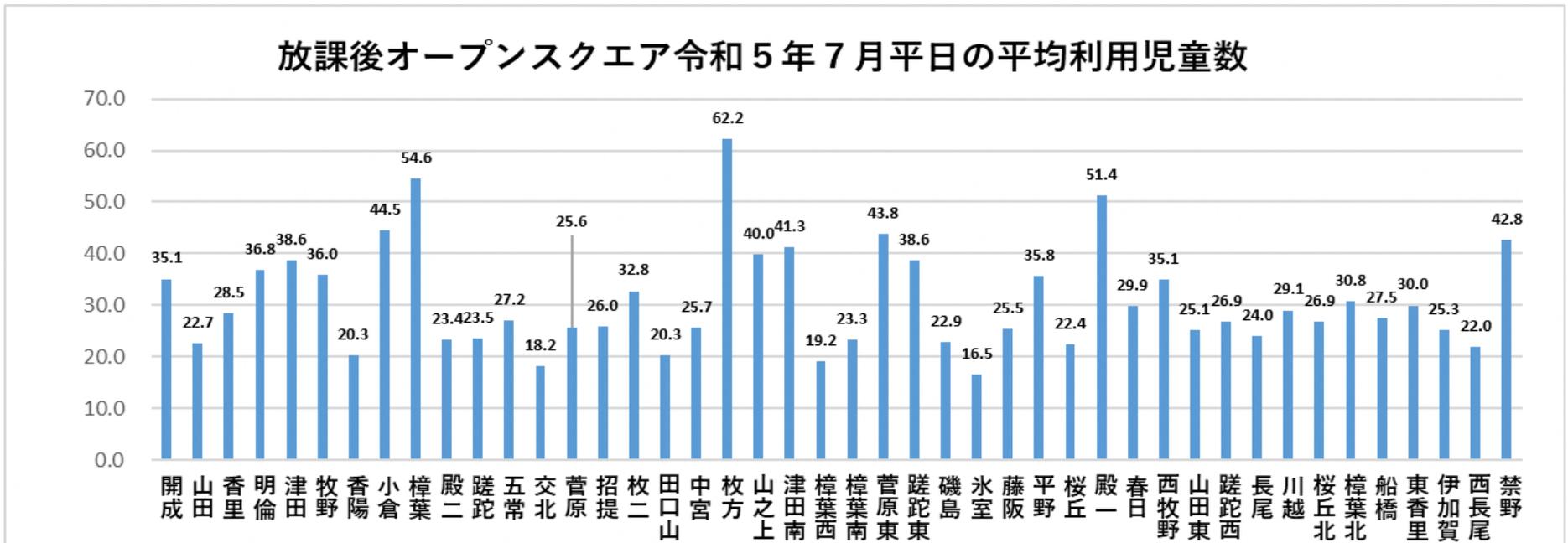
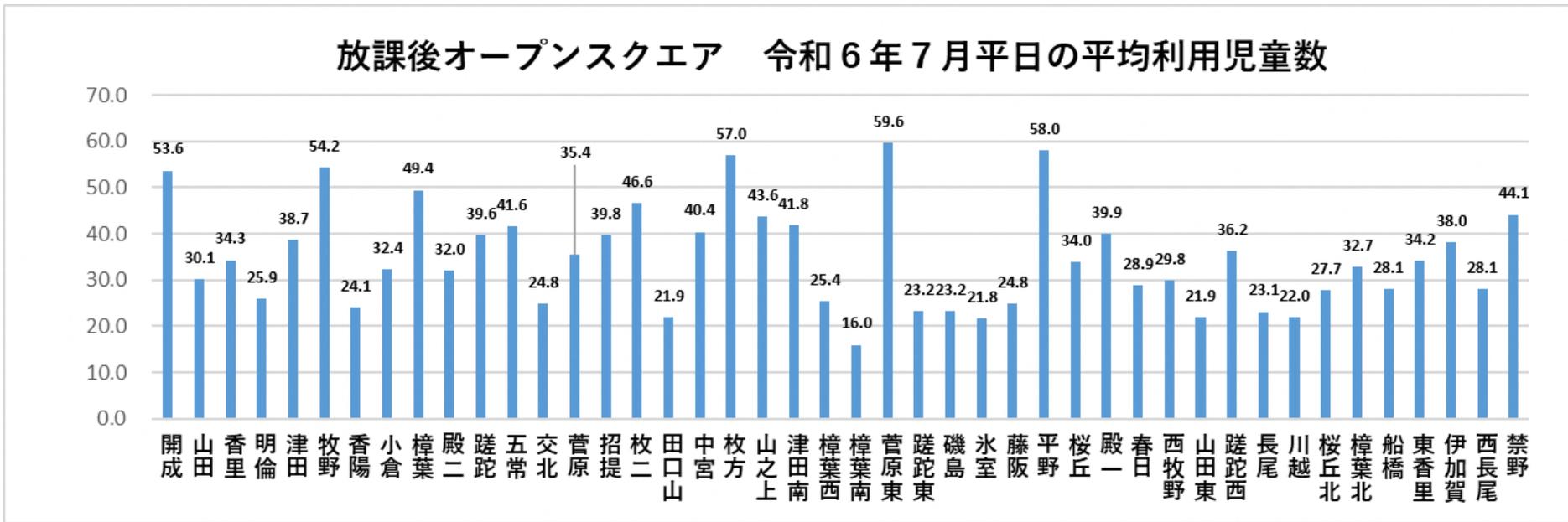
#### 放課後オープンスクエア 1日の平均利用人数 (単位：人/日)

	令和5年度		令和6年度	
	平日	土曜日	平日	土曜日
4月	12.2	2.0	29.1	2.9
5月	19.8	2.4	29.8	2.7
6月	25.2	2.8	30.0	3.5
7月	30.8	3.6	34.7	3.6
8月	24.7	2.5		
9月	25.6	3.1		
10月	25.7	2.3		
11月	23.9	2.2		
12月	25.0	2.9		
1月	22.0	2.5		
2月	21.1	2.4		
3月	21.0	2.6		

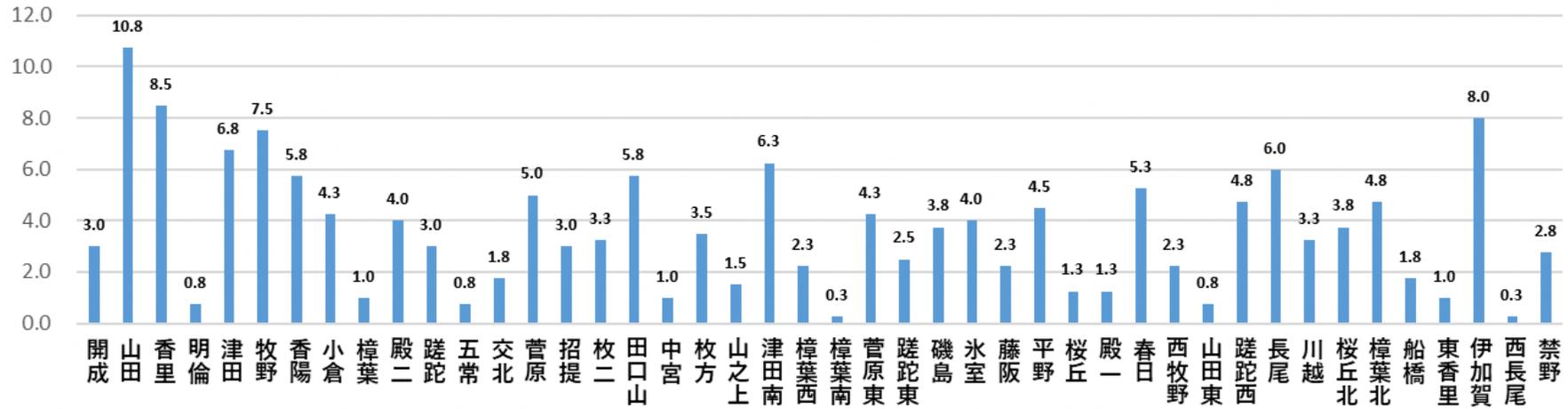
#### 令和6年度7月最多人数

1. 菅原東 82人
2. 牧野 81人
3. 枚方 80人
4. 平野 76人
5. 開成 75人

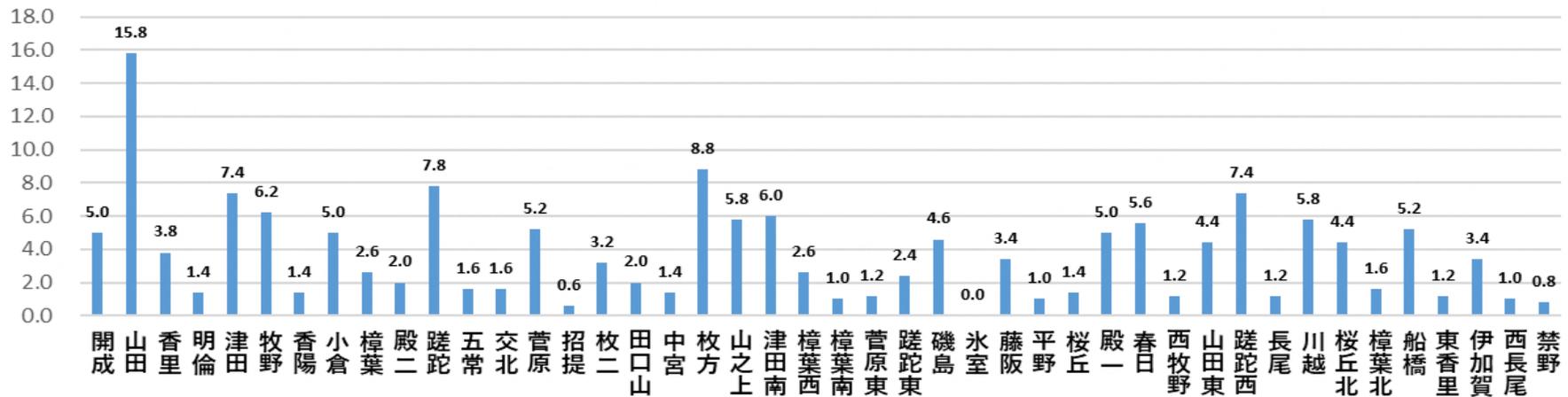
学校別の放課後オープンスクエア平均利用児童数



放課後オープンスクエア 令和6年7月土曜日の平均利用児童数



放課後オープンスクエア 令和5年7月土曜日の平均利用児童数



## 留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアの年次別状況

(単位：人)

	令和5年度			令和6年度		
	児童会室	オープン スクエア	合計	児童会室	オープン スクエア	合計
1年生	1,377	1,402	2,779	1,369	1,407	2,776
2年生	1,272	1,551	2,823	1,132	1,593	2,725
3年生	1,009	1,349	2,358	887	1,598	2,485
4年生	563	1,225	1,788	588	1,282	1,870
5年生	294	992	1,286	224	960	1,184
6年生	122	559	681	135	507	642
合計	4,637	7,078	11,715	4,335	7,347	11,682
全児童に 対する割合	23.2%	35.5%	58.7%	22.2%	37.6%	59.8%

### 【留守家庭児童会室・放課後オープンスクエアの現状】

保護者が就労等により昼間自宅に不在の家庭の児童に放課後の遊び場、居場所を提供し、児童の健全育成を図る事業（放課後児童健全育成事業）として、留守家庭児童会室を44小学校全校に設置。

また、すべての児童が放課後等を安全・安心に過ごせることができるよう、全児童対策として、令和5年度から放課後オープンスクエアとして44小学校全校で実施。放課後オープンスクエアは、自由にかつ自主的に創造力を働かせながら活動できる児童の時間、安全に遊べる空間、同年齢だけでなく異年齢の児童も含む仲間の3間の確保・充実に向け、学校施設を活用し、放課後の遊びやさまざまな体験ができる居場所づくりを進めるもの。

令和5年度から、留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアの運営を同一の実施主体が担うことでより効率的・効果的な運営が図られるよう、留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアを一体的に運営する総合型放課後事業を直営22校の民間事業者委託22校で実施。

総合型放課後事業実施後の留守家庭児童会室の年度当初の待機児童数は、令和5年度は8人、令和6年度は12人と、事業実施前と比較して大幅に減少しており、両年度とも夏季休業期前には解消。留守家庭児童会室の入室人数は減少傾向にあるが、1室の入室児童数は基準条例で定めているおおね40人程度を大きく上回っている室の状況は改善されていない。放課後オープンスクエアの1日の利用人数は昨年度より増加しており、多い日は教室1室では狭い時もある。

#### 【④枚方子どもいきいき広場】

枚方子どもいきいき広場は、土曜日を基本に各小学校区で地域団体やNPO等により、地域の特色や多様性を生かしたプログラムを実施しており、市からは実施団体に対し活動実績等に応じた補助金を交付。

令和4年度（3月末）	実施回数：5回～38回/校 平均参加数：8.5人～74.6人/校 参加延べ人数：34,329人
令和5年度（3月末）	実施回数：8回～51回/校 平均参加数：7.1人～84.8人/校 参加延べ人数：34,505人
令和6年度【予定】	予定回数：12回～23回：15団体 24回～35回：15団体 36回～48回：14団体

#### A) 参加の多い体験活動

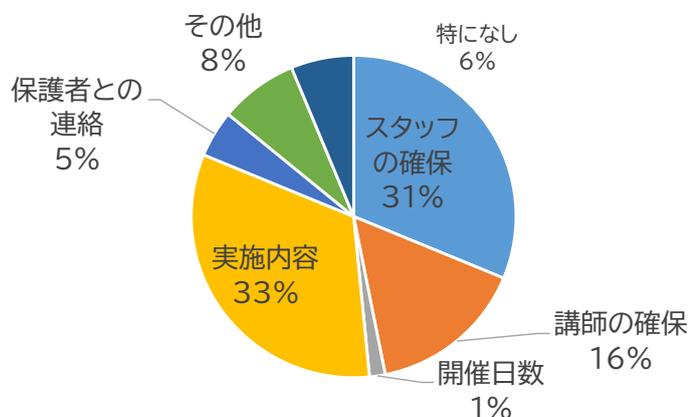
スポーツ	ドッジボール、野球、サッカー、テニス、キックベース 卓球、バドミントン、グランドゴルフ、ソフトバレー、ダンス
イベント・ゲーム	水遊び、ビンゴ大会、お楽しみ会、お別れ会、お買い物ごっこ 鬼ごっこ、逃走中、クリスマス会、昔遊び、じゃんけん大会、 魚釣り
工作	プラ板、しめ縄飾り、提灯づくり、水鉄砲、ミニクリスマスツリー 缶バッチ、バレンタイン工作、スノードームづくり、アイロンビーズ
収穫・クッキング	焼き芋、カレー作り、飯盒炊爨、ミニケーキ、ホットケーキ たけのこ掘り、もちつき、餃子づくり、みかん狩り、 水風船スイカ割、フルーツサンド
映画・音楽鑑賞	映画、読書、吹奏楽

## B)令和5年度枚方子どもいきいき広場実施団体アンケート

実施時期:令和5年6月21日(水)～7月12日(水)実施

回答数 35件(44団体対象)

活動を企画する時に課題と思っている項目



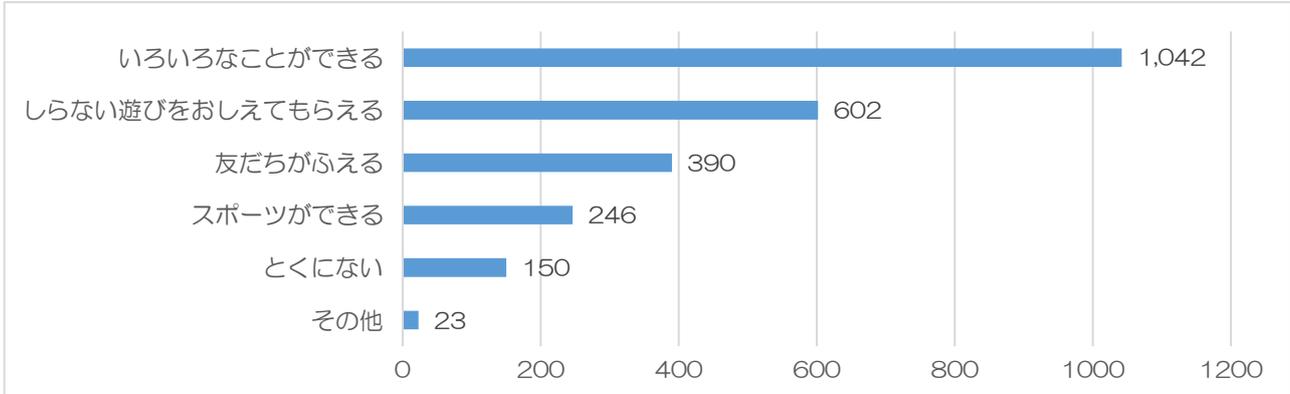
### 【その他】

- ・コロナ禍、コロナ禍後の運営を課題と感じている
- ・課題なし・児童対応を課題と感じている
- ・学校との調整やルールを課題と感じている。

- ・メニューが固定化して来て新しいメニューの試行が出来ていない。
- ・無断欠席の場合、連絡はとっていないが問題が生じた時の対処をどうするか。
- ・こどもに特性がある場合、それを教えてもらえない。
- ・学校行事が年度に入らないとわからないので、PTAや外部講師などとの調整が難しい
- ・企画や講師がマンネリ化しつつある"
- ・プログラムの工作の内容によっては、事前の準備に手が掛かり大変。その為のスタッフも必要。
- ・スタッフには現役の人もあり、土に参加できない人もいる。一方で高齢化も進み特定の人に当番が偏る傾向に全国的にPTAの見直しが進められている。このような背景からいままでのようなPTAの協力前提の活動は難しい状況になりつつある。なかなか地域でも保護者でも増やせない。
- ・参加児童が多い時は、スタッフの確保に苦勞することもある。
- ・スタッフが高齢化している
- ・仕事をしている保護者がほとんどなので、仕事を休んでもらっての出席が毎回だと負担になる
- ・自主的に活動してくれるスタッフのおかげで成り立っている
- ・プログラムによっては、多人数のスタッフが必要となるので、従来のスタッフ以外に確保するのが困難な場合がある
- ・活動内容(実施内容)について、スタッフ(サポーター)の人数を考え、子どもの参加人数を予想し、無理のない状況を常に考え企画している。
- ・いろんな行事に合わせた人数確保に苦慮している

c) 児童の放課後に関するアンケート(児童)より

●参加したことがある児童に聞いた「枚方子どもいきいき広場の良いところ」(3つまで)

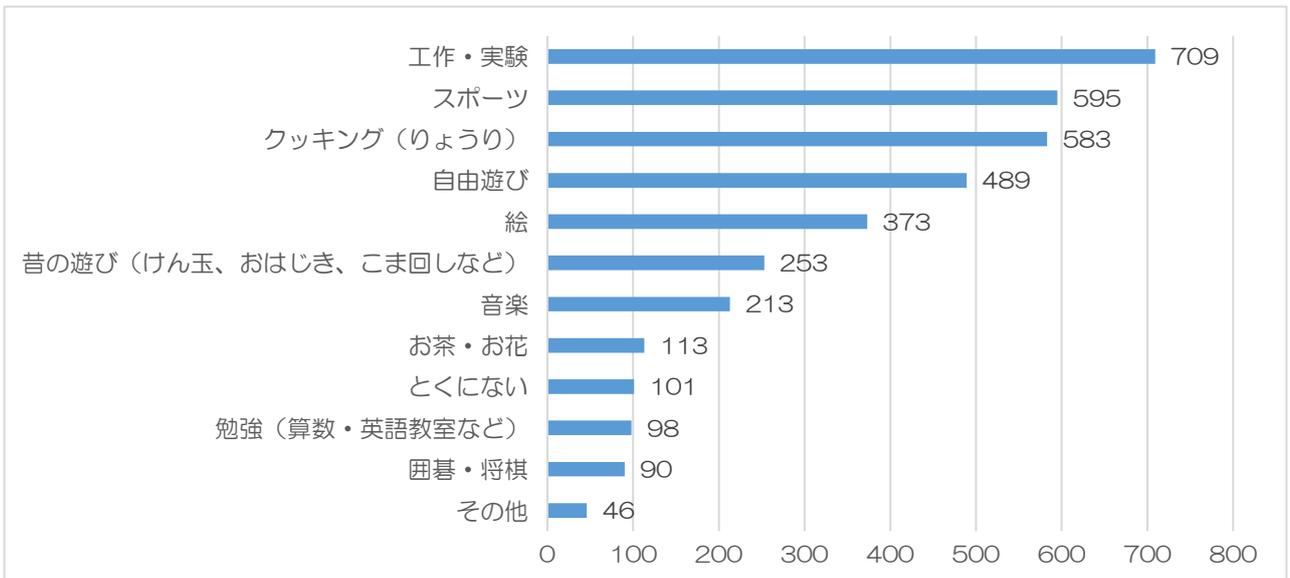


(回答件数：2,453 件)

(回答者数：1,632 人)

【その他】  
「やりたいことだけ参加ができる」「工作ができる」「地域の大人とおしゃべりできる」「料理ができる」、「作り方を教えてもらって作るのが楽しい」、「初めての体験ができる」など

●枚方子どもいきいき広場でしたいこと(3つまで)



(回答件数：3,663 件)

(回答者数：1,632 人)

【その他】  
「ゲーム」、「サッカー」、「手話」、「逃走中」、「虫探し」、「アスレチック」、「外国の人と話がしたい」、「ぬいぐるみ作り」など

【枚方子どもいきいき広場の現状】

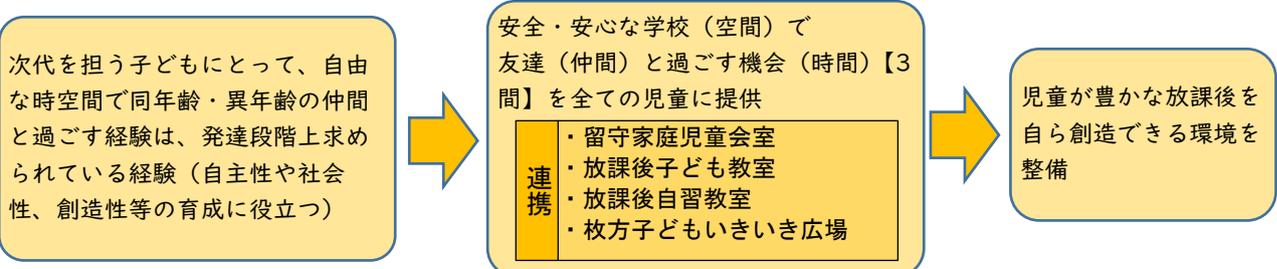
これまで、枚方市では、地域の温かい子どもたちへの見守り活動や、さまざまな趣味や特技をいかし、ネットワークのある地域の大人が子どもたちに体験活動を教えることにより、子どもの興味や関心などの好奇心をひきつけ、可能性を広げる取り組みを行っており、地域とともに子どもを育てる「枚方子どもいきいき広場」の活動を大切にしてきました。また、そうした体験活動が、地域に愛着を持ち、社会を支える人材をつくり、地域社会にフィードバックし、支えてもらう側へとつながります。そうした中、地域によって、子どもたちの体験活動を支えるスタッフの人材不足が深刻となっています。

【⑤児童の放課後を豊かにする基本計画の検証】

■趣旨

- ①共働き家庭等が直面する「小1の壁」を打破
- ②次代を担う生きる力を備えた人材を育成
- ③子育て世代をターゲットにした魅力的なまちづくり

■～子どもの放課後を豊かに～ 放課後の創造



■基本的な考え方

(1) すべての児童が自発的、自主的な諸活動を行うことができる環境の整備

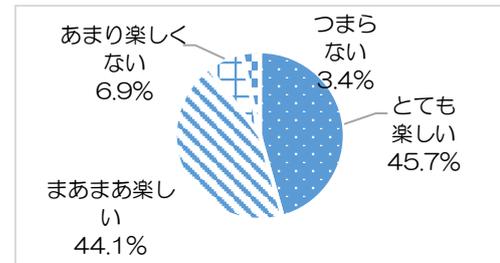
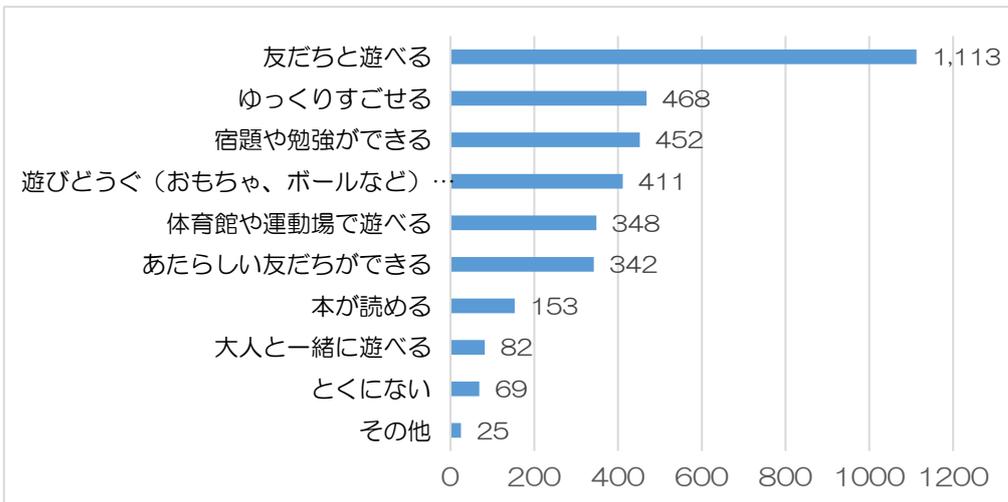


(2) 児童が自発性、自主性を発揮することができるような働きかけ



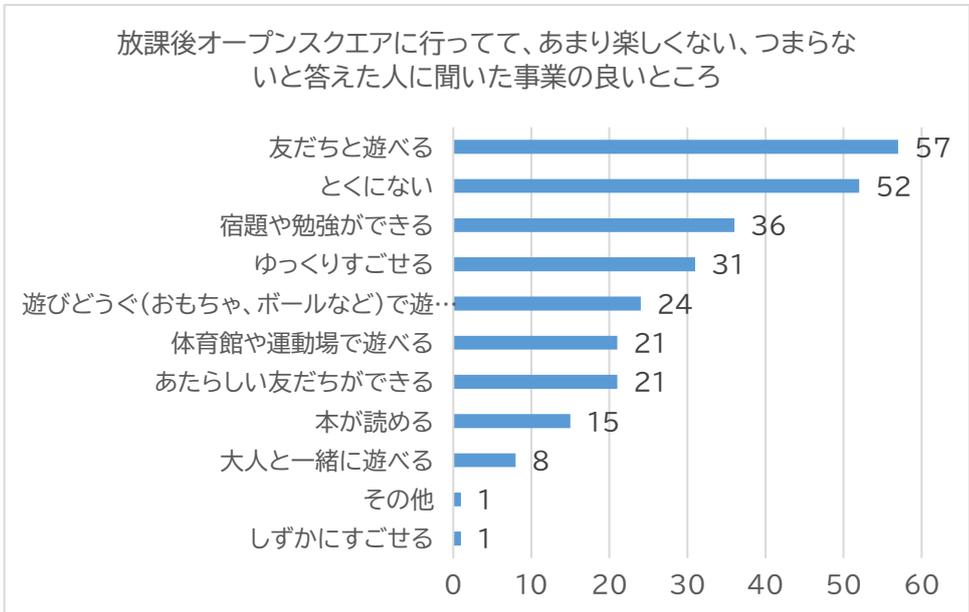
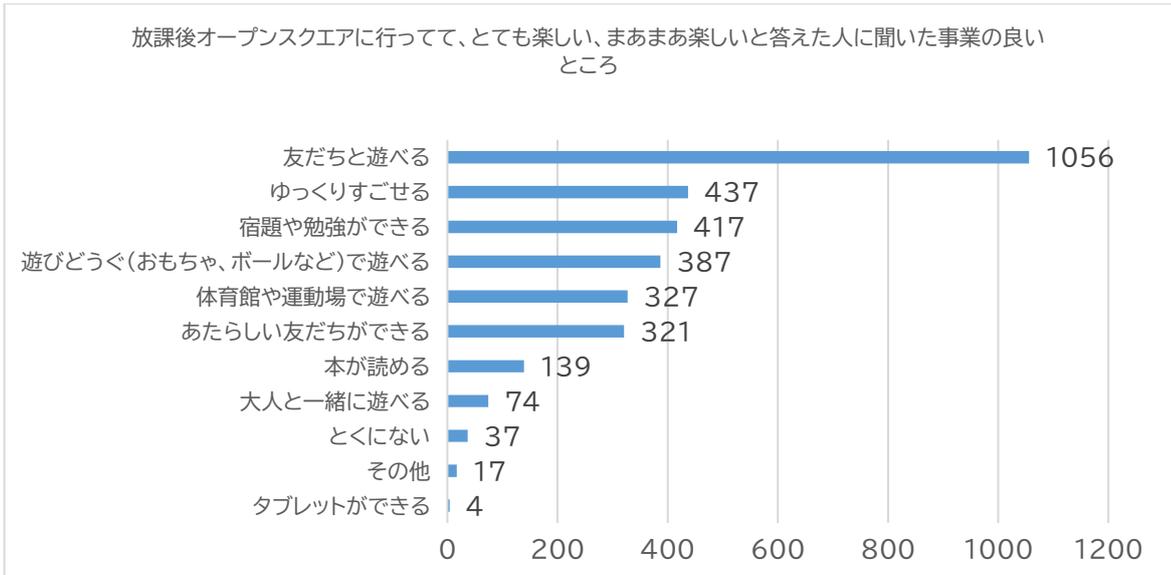
A) 児童の放課後に関するアンケート(児童)より

●参加したことがある児童に聞いた「放課後オープンスクエアの良いところ」(3つまで)

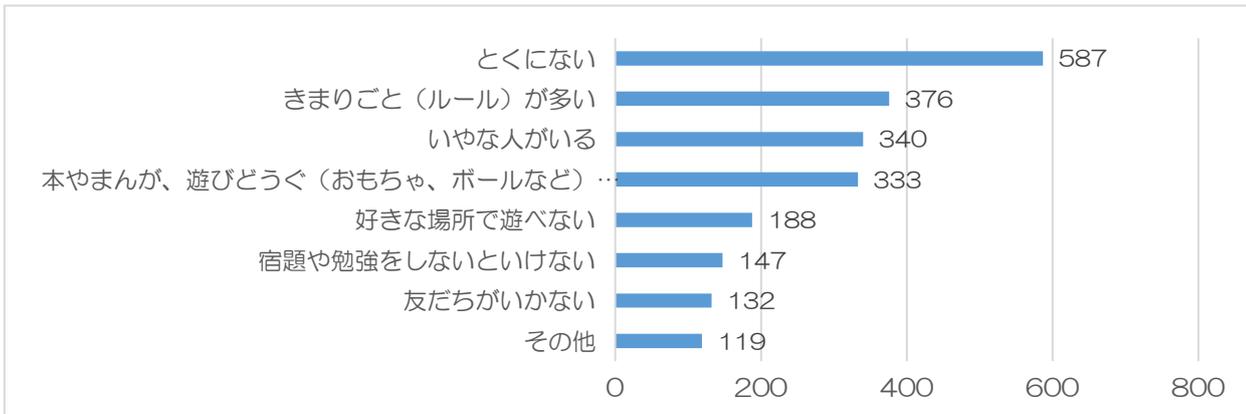


(回答件数：3,463 件)  
(回答者数：1,489 人)

【その他】  
「友だちと宿題ができる」、「タブレットができる」、「妹と遊べる」、「教室が広い」など



●参加したことがある児童に聞いた「放課後オープンスクエアの悪いところ」(3つまで)

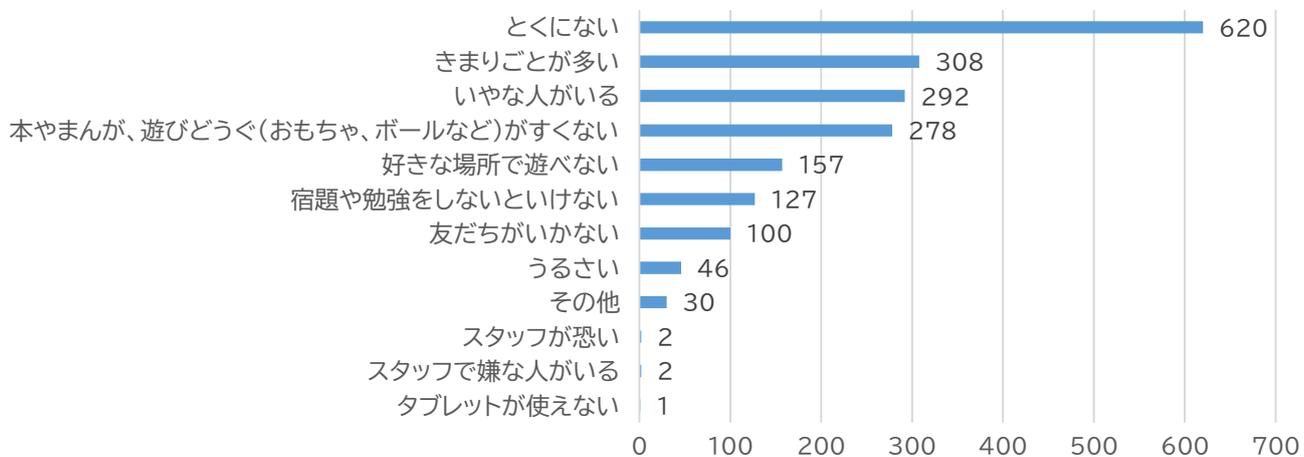


(回答件数：2,222 件)

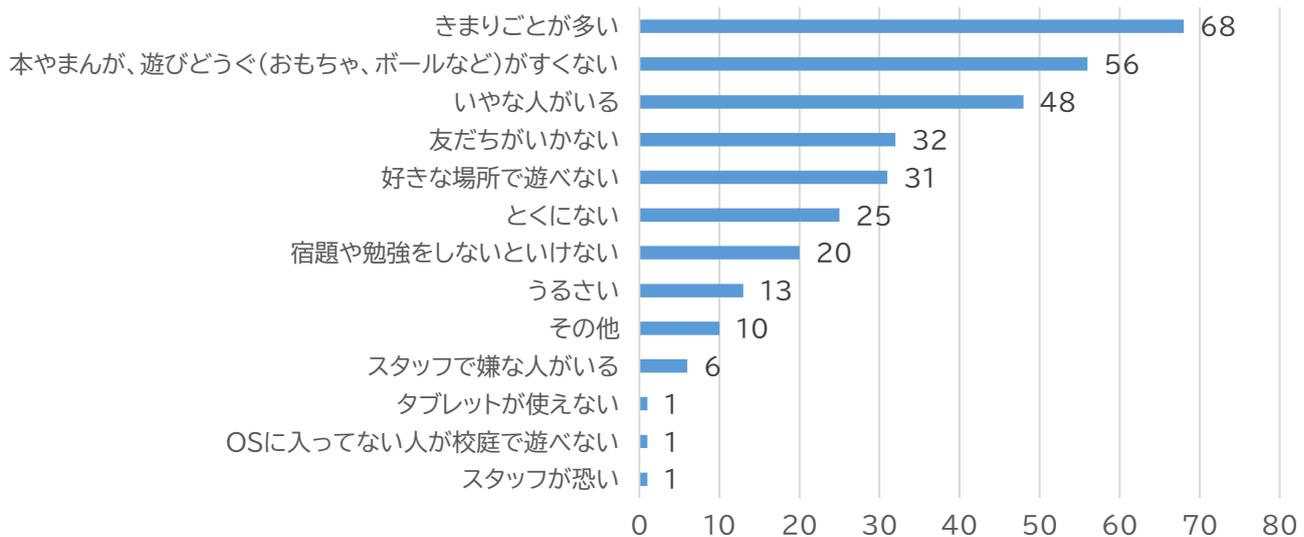
(回答者数：1,489 人)

【その他】  
 「うるさい人がいる」、「先生がこわい」「おもちゃを片付けられない人がいる」、「うるさくて宿題に集中できない」など

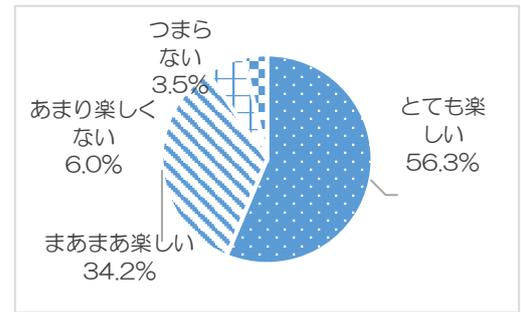
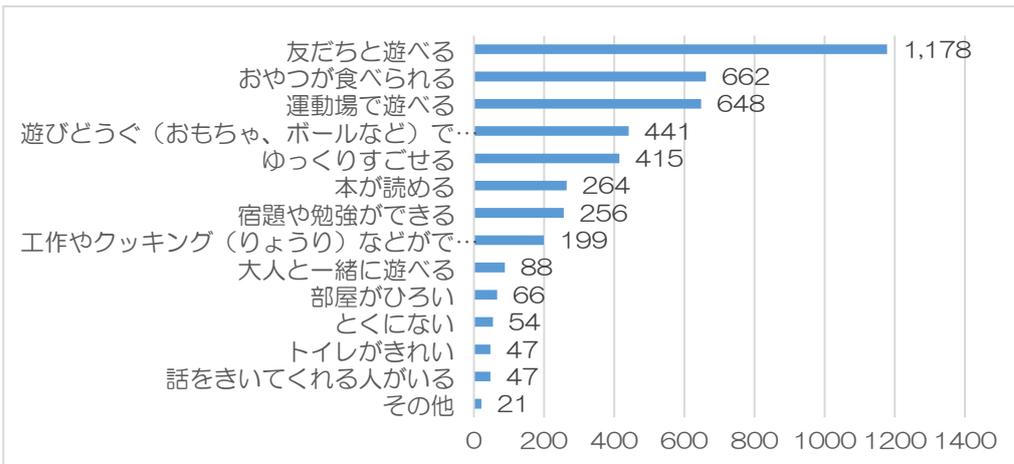
放課後オープンスクエアに行っていて、とても楽しい、まあまあ楽しいと答えた人に聞いた事業の悪いところ



放課後オープンスクエアに行っていて、あまり楽しくない、つまらないと答えた人に聞いた事業の悪いところ



●入室している児童に聞いた「留守家庭児童会室の良いところ」(3つまで)



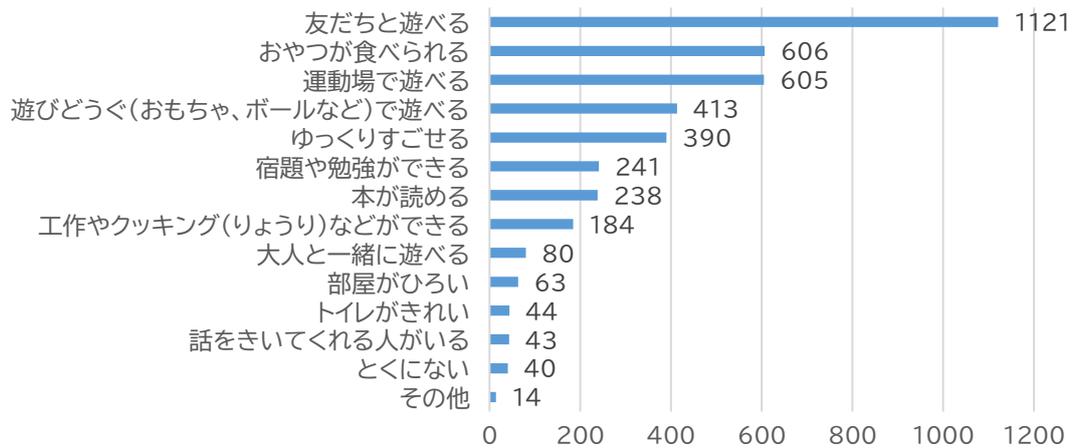
(回答件数：4,386 件)

(回答者数：1,722 人)

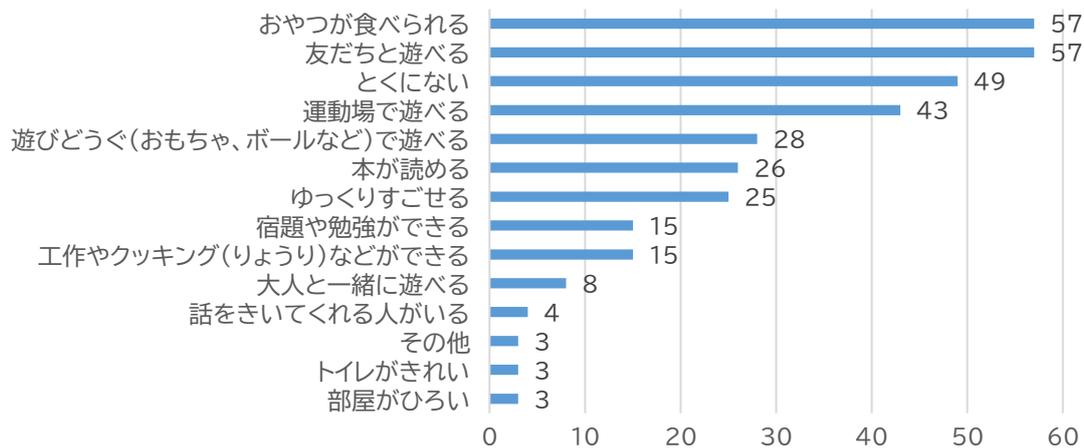
【その他】

「色々なことができる」、「ボールがある」、「イベントがある」、「低学年の子がなついてくる」、「先生がおもしろい」など

留守家庭児童会室に行つて、とても楽しい、まあまあ楽しいと答えた人で児童会室の良いところ



留守家庭児童会室に行つて、あまり楽しくない、つまらないと答えた人で児童会室の良いところ



●入室している児童に聞いた「留守家庭児童会室の悪いところ」(3つまで)



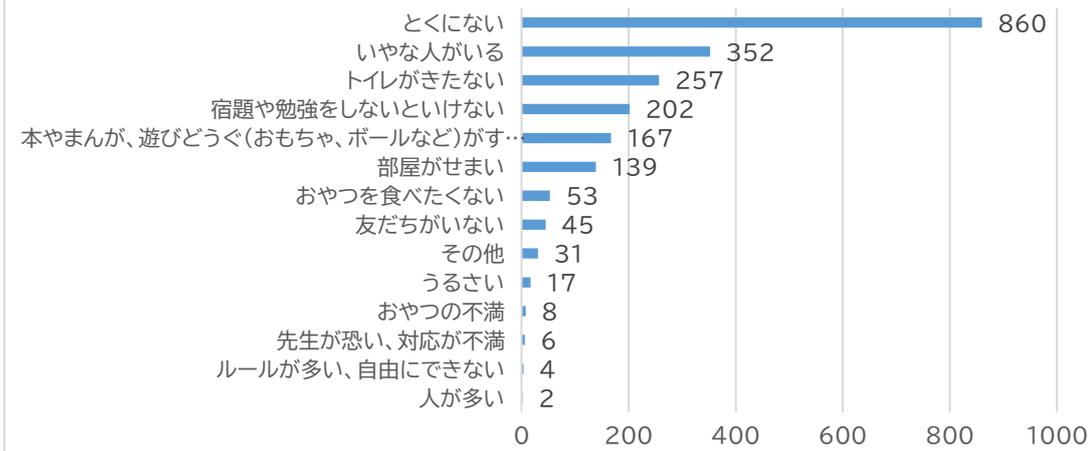
(回答件数：2,353 件)

(回答者数：1,722 人)

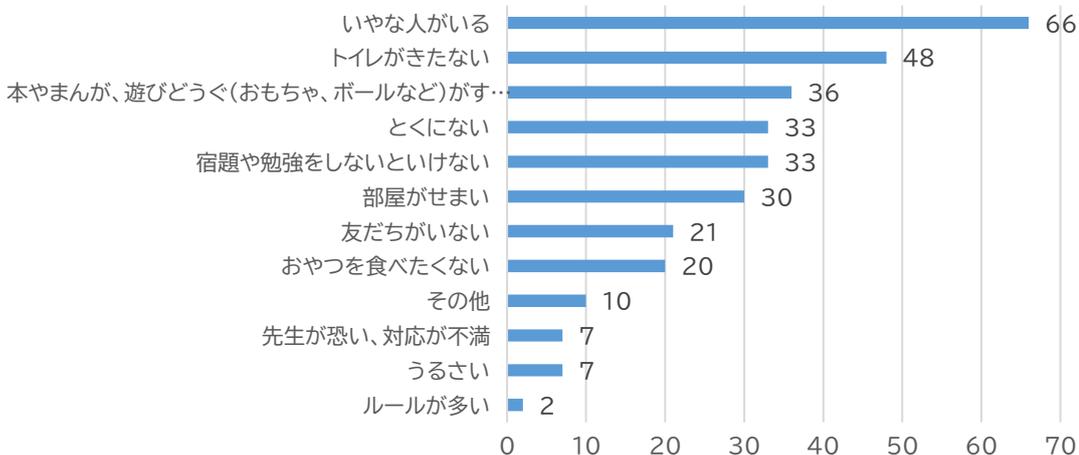
【その他】

「うるさい」、「好きなおやつがでない」、「トイレが外にある」、「トイレがせまい」、「本があまり変わらない」、「遊ぶルールが多すぎる」、「あまり自由にできない」など

留守家庭児童会室に行つて、とても楽しい、まあまあ楽しいと答えた人で児童会室の悪いところ



留守家庭児童会室に行つて、あまり楽しくない、つまらないと答えた人で児童会室の悪いところ



「児童の放課後を豊かにする基本計画」では、「放課後」は「課業から解放された後の時間」を意味し、子どもたちにとっての自発的、自主的な諸活動が行われる自由な時空間であり、この自由な時空間での仲間と過ごす体験不足が、現在の児童の発達にさまざまな影響を与えているとしています。そうしたことから、放課後の中で、仲間とともに思い思いの遊びを行ったり、一緒に宿題や学習をしたり、時にはゆっくりとした時間を過ごしたりすることによって、児童は学力を向上させ、また、仲間の大切さや同年齢・異年齢の仲間との人間関係の構築の仕方や、自分たちでルールを作り、自分たちで自主的にルールを守ることなどを体験として学び、自主性や社会性、創造性といった諸能力を自ら育て、生きる力を身に付けていくことを基本理念としました。

このため、本市では、自由にかつ自主的に創造力を働かせながら活動できる子どもの時間、安全に自由に遊べる空間、同年齢だけでなく、異年齢の児童も含む仲間の3間の確保・充実に向け、学校敷地の中に、放課後の遊びや様々な体験活動ができる環境を目的意識を持って確保するとして、留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアを一体的に運営する総合型放課後事業を令和5年度から実施しています。

総合型放課後事業は始まって2年目ですが、事業の実施を喜ぶ声が聴かれる一方で、児童のアンケート調査や意見聴取からみると、大人が必要以上に過保護や過干渉になることで、子どもたちが自分で考え、行動する機会が減り、結果として自主性を発揮する場面が少なくなっていることも見受けられました。

## (2) 課題

令和5年度からの総合型放課後事業の実施により、これまで、留守家庭児童会室の入室基準に満たなかった児童の預かりの場を求める保護者ニーズの受け皿は改善し、待機児童は一定解消しました。また、放課後オープンスクエアは、新たな児童の遊びやさまざまな体験ができる居場所となっています。しかしながら、この間の総合型放課後事業の運営の中で、さまざまな課題が生じています。また、枚方子どもいきいき広場についても、事業継続に向けて実施団体から多くの意見が寄せられています。

### A)事業面での課題

- ・児童の自主性を尊重した事業の運営
- ・留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアの連携
- ・職員の資質と人材確保
- ・子どもや保護者の多様なニーズへの対応
- ・特別な配慮を必要とする子どもや保護者への対応
- ・保護者の仕事と子育ての両立への支援
- ・就学前児童の円滑な受け入れ など

### B)施設面での課題

- ・留守家庭児童会室の専用施設の老朽化の対策
- ・学校施設を利用する際の基準の作成や、責任の所在の明確化
- ・特別教室、図書室、体育館等の有効活用 など

### C)枚方子どもいきいき広場の課題

- ・担い手不足への対策
- ・行政との連携強化 など